

## 日本ブランド発信事業 報告書

### 「青森ねぶた祭とねぶた師」

2018年10月

「日本ブランド発信事業」専門家  
青森ねぶた制作者 北村春一

#### ■事業概要

青森県青森市では毎年8月2日から7日まで「青森ねぶた祭」が開催され、大きな人形型の灯籠が山車として運行されます。その祭の山車となる「ねぶた」を制作しているのが「ねぶた師」と呼ばれる我々制作者です。

現在は国内のみならず海外からも注目されるようになってきたねぶたですが、我々ねぶた師の世界には完成形はなく、時代の変化とともに常に新しい素材や技法を研究し続けています。今後はさらに、世界へ向けて発信し、ねぶたの新たな可能性を求めていきたいと思っております。

今回の事業では「青森ねぶた祭」を紹介し多くの人に興味を持ってもらうと共に、ねぶたの制作技術を使ったワークショップを通して文化の交流を図りたいと思いました。

将来ねぶたは祭りの山車という造形物に留まらず、一つのアート作品として位置付けされることを目標に、制作に対する精神や技術の向上を目指し渡航致しました。



■スケジュール

10月27日

「1日目」マレーシア クアラルンプール

ペトロナス・ギャラリー

14:00～15:10 講演

15:10～16:00 レセプション

16:00～17:30 ワークショップ

10月28日

「2日目」マレーシア クアラルンプール

王宮博物館

14:30～15:30 講演

15:30～16:00 レセプション

16:00～17:30 ワークショップ

10月29日

「3日目」韓国 釜山

Busan Business Hotel

13:00～芸術誌「月刊芸術釜山」インタビュー

海雲台 リビンギャラリー

16:00～17:00 現地アーティスト・作家との懇談会

10月30日

「4日目」韓国 釜山

午前 朝鮮通信使歴史館見学

12:00 釜山韓日文化交流協会関係者との昼食会

国立釜慶大学校中央図書館

15:00～16:00 講演

国立釜慶大学校ドンウォンチャンボゴ館

16:30～17:50 ワークショップ

同館内カフェテリア

18:00～19:30 レセプション

10月31日

「5日目」韓国 釜山

午前 釜山市立美術館学芸士との懇談

## 【マレーシア クアラルンプール】

### ■1日目 10月27日

ペトロナス・ギャラリーにて講演及びワークショップを行う。

講演では、ねぶたの起源やねぶたができるまでの工程、実際の祭りの様子などをパワーポイントと動画を使い紹介した。

特に、世界的に有名な映画「スターウォーズ」とのコラボねぶたは現地の方々にとっても非常に関心が高かったようで、動画再生後は会場内に拍手が起こるほどであった。

参加者の方々は、元々アートに関心の高い人が多く、講演後のレセプションでは「ねぶたの題材に中国の物語を用いるのは何故か」「美術で生計を立てる決心がついたのは何故か」「こうしたイベントは青森では活発に開催されているのか」など、数多くの質問が寄せられた。

ワークショップでは、ねぶたの素材である針金や紙を使ったミニランプを制作。

ねぶたの工程である紙貼り・ロウ書き・着色といった工程を体験してもらう。

紙を貼ったミニランプ型のねぶたに、自由なデザインを描いてもらう工程では、日本で行うワークショップでの参加者とは、また一味違った感性で、森や海などの風景や自然を表現したデザインが多く見られ、国や文化、環境の違いが作品にも表れることに、改めて驚きを感じた。

### ■2日目 10月28日

天皇家とマレーシア王室の交流、現首相であるマハティール首相が1982年より行った「ルックイースト政策」で日本に関心を寄せて頂いていたことなど、解説して頂き館内を見学。

歴史や王宮での暮らしなどについて学ぶことができた。

王宮博物館にて講演及びワークショップを行う。

講演では「過去には皇室の方がねぶたをご観覧された事」「天皇家を題材としたねぶたが数多く制作されてきた事」など、天皇家と青森ねぶた祭との関わりについても併せて解説した。

ワークショップは王宮博物館内ギャラリーにて行う。

初日とは違い、参加者は子供たちを含む一般市民の方、博物館関係者の方が多く参加。

初めて見るねぶたにとっても興味を持っていた。

和紙には滑らかな面とザラザラした面がある事、ロウを塗ると水を弾き白く光る事、水を少し混ぜると色が滲む事、あらゆることに驚き学んだことを吸収していく子供たちの姿が見られた。

【マレーシア クアラルンプール】



北村氏による講演の様子  
(於：ペトロナス・ギャラリー)



会場の様子  
(於：ペトロナス・ギャラリー)



ワークショップにて参加者に説明をする北村氏  
(於：ペトロナス・ギャラリー)



ワークショップにて参加者に説明をする北村氏  
(於：ペトロナス・ギャラリー)



ワークショップの様子  
(於：ペトロナス・ギャラリー)



参加者との集合写真  
(於：ペトロナス・ギャラリー)



講演前の会場の様子  
(於：王宮博物館)



北村氏による講演の様子  
(於：王宮博物館)



ワークショップにて参加者に説明をする北村氏  
(於：王宮博物館)



ワークショップにて参加者に説明をする北村氏  
(於：王宮博物館)



ワークショップの様子  
(於：王宮博物館)



参加者との集合写真  
(於：王宮博物館)

## 【韓国 釜山】

### ■1日目 10月29日

芸術誌「月間芸術釜山」のインタビューを受け、「ねぶたの起源」「ねぶたが出来るまでの制作工程」「ねぶたの運行の様子」「未来のねぶたとねぶたに賭ける思い」について話す。

インタビュー終了後、海雲台にある「リビンギャラリー」にて「紙」や「ロウ」を扱った4名のアーティストとの懇談会に参加。同じ素材を扱う作家として作品を創作する上で「紫の色は変色しやすい」「自己発信していく上で収入源をどう確保するか」といった苦労話の他「一人の作家として自分が突き詰めた制作技法をどう他のアートに反映させ、アート界の発展に寄与するか」「紙ならではの魅力」など共感する部分が多く、非常に有意義な時間を過ごせた。

### ■2日目 10月30日

朝鮮通信使歴史館を見学し、古来より日本との交流があった歴史を学ぶ。

釜山韓日文化交流協会関係者との昼食会后、国立釜慶大学校中央図書館にて講演を行う。

講演には90名程集まり、皆熱心に耳を傾けていた。

質疑応答では「どうしてサラリーマンを辞めてまでねぶた師になったのか」「ねぶた師になることに金銭面での不安はなかったのか」「たった一枚の下絵から、立体的なねぶたをどうやって作っているのか」といった質問など数多く声が上がリ、ねぶたへの関心の高さに驚いた。

その後、同校内ドンウォンジャンボゴ館にてワークショップを行う。

最もテクニックを要する骨組みに紙を貼る作業では、私の説明を一度受けただけで皆が和紙を綺麗に貼っていたことに大変驚いた。

韓国で活躍している画家の方にも参加いただき、私が見本として制作したランプと交換するという場面もあった。また、参加者の殆どは日本語を学んでいる留学生の方で、日本語の解説も理解している様子だった。紙を貼る作業中、皆夢中になっていた為「今までこんなに静かなワークショップは初めて」という声が上がった。そこで急遽、私の地元青森の方言を会話方式で解説しながら披露すると、大変盛り上がり終始和やかなムードで講習ができた。

ワークショップ後、同館内カフェテリアにて在釜山日本国総領事館の方々や燃灯祭り関係者、ワークショップ参加者等による懇親会が開かれた。そこで紹介して頂いた釜山近郊の有名な祭りである「燃灯祭り」は、布で作られた数え切れない程の提灯が闇夜を幻想的に照らすという。その「燃灯祭り」に「ねぶた祭」を重ね、共通点も多いことから、いつの日か互いに技術の向上の為の文化交流が実現できないかという思いが浮かび、そんな話も交えながら、友好を深めることができた一日だった。

【韓国 釜山】



講演会場の様子

(於: 国立釜慶大学校中央図書館)



講演の様子

(於: 国立釜慶大学校中央図書館)



워크숍の様子

(於: 돈웅온ジャンボ館)



워크숍の様子

(於: 돈웅온ジャンボ館)



워크숍の様子

(於: 돈웅온ジャンボ館)



参加者との集合写真

(於: 돈웅온ジャンボ館)

## ■まとめ

今回の事業でマレーシア クアラルンプール・韓国 釜山へ渡航し、海外の方に講演や講習会などを行うのは初めてのことであった為、戸惑うこともありましたが多くの方々のご協力のお陰で全日程を滞りなく終了し、多くの成果があったと感じております。

講演では、想像以上に「青森ねぶた祭」への関心が高く、興味をもって話を聞いてもらえたことが、非常に嬉しかったことでした。

ワークショップでは、ねぶた制作の技法を用いて針金で出来た骨組みに和紙を貼り、思い思いに彩色を施し、皆それぞれ違った作品に仕上がり、日本で行うワークショップとは、また一味違ったものとなり新鮮で刺激を受けました。

現地の各施設でも見学する機会を頂き、そこで得るものも多くあり大変勉強になりました。

今回の渡航で「青森ねぶた祭の魅力を伝える」という一つの目標の第一歩を踏み出すと同時に、ねぶたの制作技法を使った新たな作品への可能性を広げることができたのではないかと思います。

そして、国を超えた文化の交流を通して得るものが沢山あるのだと感じ、非常に有意義な時間を過ごすことができました。

今後も、あらゆることに挑戦し続け、更に精進していく所存です。

この度お世話になった多くの方々に感謝すると共に、今回の経験を生かして日々努めて参りたいと思います。

## 参考リンク

・[外務省「日本ブランド発信事業」ホームページ](#)

・[「蓮乃團」ホームページ](#)